



(様式第9)

金大病総第120号
平成19年10月11日

厚生労働大臣 殿

金沢大学医学部附属病院長
富田 勝 郎

金沢大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法第12条の3の規定に基づき、平成18年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照 (様式第10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照 (様式第11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	19.3人
--------	-------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法
→ 別紙参照 (様式第12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績
→ 別紙参照 (様式第13)
- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常勤	非常勤	合 計	職 種	員数	職 種	員数	
医 師	429人	12人	431.1人	看護業務補助	49人	診療エックス線技師	0人	
歯科医師	18人	2人	18.3人	理学療法士	9人	臨床 検査	臨床検査技師	48人
薬 剤 師	38人	3人	40.3人	作業療法士	5人		衛生検査技師	2人
保 健 婦	0人	0人	0.0人	視能訓練士	5人		その他	2人
助産婦	11人	0人	11.0人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指折師	0人	
看 護 師	519人	14人	529.5人	臨床工学技士	4人	医療社会事業従事者	2人	
准看護師	4人	2人	5.5人	栄 養 士	0人	その他の技術員	6人	
歯科衛生士	1人	0人	1.0人	歯 科 技 工 士	1人	事 務 員	135人	
管理栄養士	9人	0人	9.0人	診療放射線技師	32人	その他の職員	16人	

- (注) 1 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、少数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

- 8 入院患者、外来患者及び調剤の数
 歯科、矯正歯科及び小児歯科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合 計
一日当たり平均入院患者数	731人	8人	739人
一日当たり平均外来患者数	1,616人	62人	1,678人
一日当たり平均調剤数	1,292剤		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日24時現在の在院患者数の合計)を歴日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ歴日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

1 高度先進医療の承認の有無及び取扱い患者数

高度先進医療の種類(医科)	承認	取扱い患者数
・顔面骨又は頭蓋骨の観血的移動術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・培養細胞による先天性代謝異常診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・溶血性貧血症の病因解析及び遺伝子解析診断法	有・ <input type="radio"/> 無	人
・経皮的埋め込み電極を用いた機能的電子刺激療法	有・ <input type="radio"/> 無	人
・人工括約筋を用いた尿失禁の治療	有・ <input type="radio"/> 無	人
・人工中耳	有・ <input type="radio"/> 無	人
・実物大臓器立体モデルによる手術計画	有・ <input type="radio"/> 無	人
・性腺機能不全の早期診断法	有・ <input type="radio"/> 無	人
・経皮的レーザー椎間板切除術(内視鏡下を含む)	有・ <input type="radio"/> 無	人
・造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物P糖蛋白の測定	有・ <input type="radio"/> 無	人
・スキンドファイバー法による悪性高熱症診断法	有・ <input type="radio"/> 無	人
・血小板膜糖蛋白異常症の病型及び病因診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・焦点式高エネルギー超音波療法	有・ <input type="radio"/> 無	人
・オープンMRを用いた腰椎椎間板ヘルニアに対するヤグレーザーによる経皮的椎間板減圧術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・肺腫瘍のCTガイド下気管支鏡検査	有・ <input type="radio"/> 無	人
・先天性血液凝固異常症の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・筋緊張性ジストロフィーのDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・SDI法による抗がん剤感受性試験	有・ <input type="radio"/> 無	人
・内視鏡下頸部良性腫瘍摘出術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・栄養障害型表皮水疱症のDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・家族性アミロイドーシスのDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・三次元形状解析による顔面の形態的診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・マス・スペクトロメトリーによる家族性アミロイドーシスの診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・抗がん剤感受性試験	有・ <input type="radio"/> 無	人
・子宮頸部前がん病変のHPV-DNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・不整脈疾患における遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・腹腔鏡下肝切除術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・画像支援ナビゲーション手術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・悪性腫瘍に対する粒子線治療	有・ <input type="radio"/> 無	人
・エキシマレーザーによる治療的角膜切除術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・成長障害のDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・生体部分肺移植術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・門脈圧亢進症に対する経頸静脈肝内門脈大循環短絡術	<input checked="" type="radio"/> 有・ <input type="radio"/> 無	2人
・乳房温存療法における鏡視下腋窩郭清術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・腫瘍性骨病変及び骨粗鬆症に伴う骨脆弱性病変に対する経皮的骨形成術	<input checked="" type="radio"/> 有・ <input type="radio"/> 無	1人
・声帯内自家側頭筋膜移植術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・骨髄細胞移植による血管新生療法	有・ <input type="radio"/> 無	人
・ミトコンドリア病のDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・悪性黒色腫又は乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	有・ <input type="radio"/> 無	人
・鏡視下肩峰下腔徐圧術	有・ <input type="radio"/> 無	人

高度先進医療の種類（医科）	承認	取扱い患者数
・神経変性疾患の DNA 診断	有・無	人
・脊髄性筋萎縮症の DNA 診断	有・無	人
・難治性眼疾患に対する羊膜移植術	有・無	3人
・固形がんに対する重粒子線治療	有・無	人
・脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術	有・無	11人
・カフェイン併用化学療法	有・無	29人
・31 磷-磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲的診断	有・無	人
・特発性男性不妊症又は性腺機能不全症の遺伝子診断	有・無	0人
・胎児尿路・羊水腔シャント術	有・無	人
・遺伝性コプロポルフィン症の DNA 診断	有・無	人
・固形腫瘍(神経芽腫)の RNA 診断	有・無	人
・硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療	有・無	人
・重症BCG副反応症例における遺伝子診断	有・無	人
・自家液体窒素処理骨による骨軟部腫瘍切除後骨欠損の再建	有・無	9人
・臍腫瘍に対する腹腔鏡補助下臍切除術	有・無	人
・低悪性度非ホジキンリンパ腫の遺伝子診断	有・無	人
・悪性脳腫瘍に対する抗がん剤治療における薬剤耐性遺伝子解析	有・無	人
・高発がん性遺伝性皮膚疾患の DNA 診断	有・無	人
・筋過緊張に対する muscle afferent block(MAB)治療	有・無	人
・Q 熱診断における血清抗体価測定及び病原体遺伝子診断	有・無	人
・エキシマレーザー冠動脈形成術	有・無	人
・活性化 T リンパ球移入療法	有・無	人
・抗がん剤感受性試験 (CD-DST 法)	有・無	人
・胸部悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	有・無	人
・家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	有・無	人
・腎悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	有・無	人
・膀胱尿管逆流症に対する腹腔鏡下逆流防止術	有・無	人
・中枢神経白質形成異常症の遺伝子診断	有・無	人
・三次元再構築画像による股関節疾患の診断と治療	有・無	人
・樹状細胞と腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法	有・無	人
・内視鏡下甲状腺がん手術	有・無	人
・骨腫瘍の CT 透視ガイド下経皮的ラジオ波焼灼療法	有・無	人
・泌尿生殖器腫瘍の後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術	有・無	人
・HLA 抗原不一致血縁ドナーからの CD34 陽性造血幹細胞移植	有・無	人
・下肢静脈瘤に対する血管内レーザー治療法	有・無	人
・頸椎椎間板ヘルニアに対するヤグレーザーによる経皮的椎間板減圧術(CT透視下)	有・無	人
・胎児胸腔・羊水腔シャントチューブ留置術	有・無	人
・活性化血小板の検出	有・無	人
・早期胃がんに対する腹腔鏡下センチネルリンパ節検索	有・無	人
・ケラチン病の遺伝子診断	有・無	人
・隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子診断	有・無	人
・末梢血幹細胞(CD34 陽性細胞に限る。)による血管再生治療	有・無	人
・末梢血単核球移植による血管再生治療	有・無	人

高度先進医療の種類（医科）	承認	取扱い患者数
・副甲状腺内活性型ビタミンD(アナログ)直接注入療法	有・ <input type="radio"/> 無	人
・グルタミン受容体自己抗体による自己免疫性神経疾患の診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
・腹腔鏡下広汎子宮全摘出術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・一絨毛膜性双胎妊娠において発症した双胎間輸血症候群に対する内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・自己腫瘍(組織)を用いた活性化自己リンパ球移入療法	有・ <input type="radio"/> 無	人
・自己腫瘍(組織)及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法	有・ <input type="radio"/> 無	人

高度先進医療の種類（歯科）	承認	取扱い患者数
・インプラント義歯	<input checked="" type="radio"/> 有・無	17人
・顎顔面補綴	有・ <input type="radio"/> 無	人
・顎関節症の補綴学的治療	有・ <input type="radio"/> 無	人
・歯周組織再生誘導法	有・ <input type="radio"/> 無	人
・接着ブリッジによる欠損補綴並びに動揺歯固定	有・ <input type="radio"/> 無	人
・光学印象採得による陶材歯冠修復法	有・ <input type="radio"/> 無	人
・エックス線透視下非観血的唾石摘出術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・レーザー応用による齶蝕除去・スケーリングの無痛療法	有・ <input type="radio"/> 無	人
・顎関節鏡視下レーザー手術併用による円板縫合固定術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・顎関節脱臼内視鏡下手術	有・ <input type="radio"/> 無	人
・耳鼻いんこう科領域の機能障害を伴った顎関節症に対する中耳伝音系を指標とした顎位決定法	有・ <input type="radio"/> 無	人

先進医療の種類	承認	取扱い患者数
高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	有・ <input type="radio"/> 無	人
自動吻合器を用いた直腸粘膜脱又は内痔核手術(PPH)	有・ <input type="radio"/> 無	人
画像支援ナビゲーションによる膝靭帯再建手術	有・ <input type="radio"/> 無	人
凍結保存同種組織を用いた外科治療	有・ <input type="radio"/> 無	人
強度変調放射線治療	有・ <input type="radio"/> 無	人
胎児心超音波検査	有・ <input type="radio"/> 無	人
内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術	有・ <input type="radio"/> 無	人
画像支援ナビゲーションによる内視鏡下鼻内副鼻腔手術	有・ <input type="radio"/> 無	人
インプラント義歯	有・ <input type="radio"/> 無	人
顎顔面補綴	有・ <input type="radio"/> 無	人
人工中耳	有・ <input type="radio"/> 無	人
歯周組織再生誘導法	有・ <input type="radio"/> 無	人
抗がん剤感受性試験	有・ <input type="radio"/> 無	人
腹腔鏡下肝切除術	有・ <input type="radio"/> 無	人
生体部分肺移植術	有・ <input type="radio"/> 無	人
活性化血小板の検出	有・ <input type="radio"/> 無	人
末梢血幹細胞による血管再生治療	有・ <input type="radio"/> 無	人

先進医療の種類	承認	取扱い患者数
カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
先天性銅代謝異常症の遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
超音波骨折治療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
眼底三次元画像解析	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
CYP2C19遺伝子多型検査に基づくテーラーメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
非生体ドナーから採取された同種骨・靱帯組織の凍結保存	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
X線 CT 診断装置及び手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
定量的 CT を用いた有限要素法による骨強度予測評価	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人

(注)1 「取扱い患者数」欄に、前年度の年間実患者数を記入すること。

2 高度先進医療で上の表に掲げられていないものを行っている場合は、空欄の部分にすること。

3 先進医療で上の表に掲げているものは、今年度の業務に関する報告の対象ではないが来年度以降の参考のため記入すること。

2 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱い患者数	疾患名	取扱い患者数
・ベーチェット病	59人	・モヤモヤ病(ウイルス動脈輪閉塞症)	11人
・多発性硬化症	47人	・ウェゲナー肉芽腫症	7人
・重症筋無力症	84人	・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	19人
・全身性エリテマトーデス	242人	・多系統萎縮症	24人
・スモン	0人	・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	4人
・再生不良性貧血	82人	・膿疱性乾癬	5人
・サルコイドーシス	74人	・広範脊柱管狭窄症	4人
・筋萎縮性側索硬化症	27人	・原発性胆汁性肝硬変	84人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	354人	・重症急性膵炎	3人
・特発性血小板減少性紫斑病	67人	・特発性大腿骨頭壊死症	33人
・結節性動脈周囲炎	34人	・混合性結合組織病	30人
・潰瘍性大腸炎	123人	・原発性免疫不全症候群	9人
・大動脈炎症候群	23人	・特発性間質性肺炎	11人
・ビュルガー病	20人	・網膜色素変性症	14人
・天疱瘡	20人	・プリオン病	3人
・脊髄小脳変性症	46人	・原発性肺高血圧症	2人
・クローン病	79人	・神経繊維腫症	13人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	6人	・亜急性硬化性全脳炎	1人
・悪性関節リウマチ	7人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	3人
・パーキンソン病関連疾患	128人	・特発性慢性肺血栓栓症(肺高血圧型)	2人
・アミロイドーシス	11人	・ライソゾーム病(ファブリー[Fabry]病)含む	3人
・後縦靭帯骨化症	86人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・ハンチントン病	6人		

(注)「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

3 病院・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	①. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ②. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	1週間に 2回程度 1ヶ月に 8回程度	
部 検 の 状 況	部検症例数 32例	部検率 10.2%

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
過栄養状態における肝臓機能の破綻と生活習慣病の研究	金子 周一	消化器内科	31,500,000	(補) 日本学術振興会 委
進行肝細胞癌に対する集学的治療確立に関する研究	金子 周一	消化器内科	1,000,000	(補) 厚生労働省 委
B型及びC型肝炎ウイルス感染者における新たな発がん予防法の確立のための肝がん発生等の病態解明に関する研究	金子 周一	消化器内科	3,000,000	(補) 厚生労働省 委
C型肝炎新規治療開発に資するプロテオーム解析を用いた治療標的分子の網羅的検索系とヒト肝細胞キメラマウスHCV感染モデルを用いた実証系の開発に関する研究	金子 周一	消化器内科	3,000,000	(補) 厚生労働省 委
B型及びC型肝炎の疫学及び検診を含む肝炎対策に関する研究	金子 周一	消化器内科	1,000,000	(補) 厚生労働省 委
C型肝炎ウイルス増殖に関わる宿主因子の同定とその肝病態における役割	本多 政夫	消化器内科	1,700,000	(補) 日本学術振興会 委
癌特異抗原を用いた肝癌の細胞性免疫療法に関する基礎的検討	水腰 英四郎	消化器内科	1,500,000	(補) 文部科学省 委
肺癌患者の肝発癌抑制治療の開発	水腰 英四郎	消化器内科	1,000,000	(補) Liver Forum in Kyoto 委
マーカー遺伝子を用いた肝がん細胞の起源と分子機構の解明	中本 安成	消化器内科	1,700,000	(補) 文部科学省 委
肝癌化学療法に対する遺伝子治療併用の基礎的研究	山下 竜也	消化器内科	1,500,000	(補) 文部科学省 委
免疫担当細胞の遺伝子発現プロファイル解析による癌免疫の解明	酒井 佳夫	消化器内科	2,100,000	(補) 文部科学省 委
Genomicsにより同定した血管新生因子ephrin-A1の肝癌進展における役割の解析	飯田 宏	消化器内科	300,000	(補) 国際科学振興財団 フォーラム 委
副腎ホルモン産生異常に関する調査研究	武田 仁勇	内分泌・代謝内科	300,000	(補) 厚生労働省 委
2型糖尿病患者の肝臓における酸化的リン酸化を制御するマスター遺伝子の同定	篁 俊成	内分泌・代謝内科	1,700,000	(補) 日本学術振興会 委
過栄養状態における肝臓が2型糖尿病の病態を形成する可能性とその分子機構の解析	篁 俊成	内分泌・代謝内科	500,000	(補) 国際科学振興財団 フォーラム 委
2型糖尿病患者を対象とした血管合併症抑制のための強化療法と従来治療とのランダム化比較試験(J-DOIT3)	篁 俊成	内分泌・代謝内科	300,000	(補) 国際協力医学研究 振興財団 委
メタボリック症候群予防のためのインスリン抵抗性簡易キットの開発と評価	米田 隆	内分泌・代謝内科	1,000,000	(補) 医科学応用研究財団 委
末梢血中単核球における時計遺伝子発現を指標とした包括的2型糖尿病治療法の確立	安藤 仁	内分泌・代謝内科	1,800,000	(補) 文部科学省 委
冠動脈不安定粥腫の同定とその効果的破綻予防、治療法の開発に関する多施設共同研究	山岸 正和	循環器内科	7,904,000	(補) 厚生労働省 委
Genotype-phenotype variation in cardiomyopathies caused by cardiac troponin I gene mutation	今野 哲雄	循環器内科	100,000	(補) 医科学応用研究財団 委
REST遺伝子E116K変異導入マウスを用いた新しい心不全発症機序に関する研究	今野 哲雄	循環器内科	4,000,000	(補) 万有生命科学振興 国際交流財団 委
代謝関連核内受容体遺伝子変異機能解析と肥満および脂質代謝異常	野原 淳	循環器内科	1,300,000	(補) 文部科学省 委

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
家族性高コレステロール血症の簡易遺伝子診断法の確立	水野 美保子	循環器内科	760,000	補委 日本学術振興会
アトピー咳嗽におけるIgE非依存性機序と環境真菌の重要性	藤村 政樹	呼吸器内科	1,000,000	補委 日本学術振興会
分子標的薬の感受性・耐性を規定する因子の同定と個別化治療に向けての基礎的アプローチ	笠原 寿郎	呼吸器内科	500,000	補委 厚生労働省
骨髄不全における自己抗原特異的T細胞を介したPNHクローン増幅メカニズムの解明	中尾 眞二	血液内科	6,800,000	補委 日本学術振興会
特発性造血障害に関する調査研究	中尾 眞二	血液内科	2,300,000	補委 厚生労働省
同種造血幹細胞移植治療の成績向上を目指した包括的臨床研究	中尾 眞二	血液内科	500,000	補委 厚生労働省
アレルツズマップを用いたHLAニ座以上不一致血縁ドナーからの同種造血幹細胞移植療法の開発に関する研究	中尾 眞二	血液内科	500,000	補委 厚生労働省
難治性白血病に対する標準的治療法の確立に関する研究	大竹 茂樹	血液内科	3,500,000	補委 厚生労働省
難治性白血病に対する標準的治療法の確立に関する研究	大竹 茂樹	血液内科	5,920,000	補委 厚生労働省
抗リン脂質抗体の誘導・発症に及ぼす接着分子の関与:接着分子KOマウスを用いた検討	山崎 雅英	血液内科	1,300,000	補委 日本学術振興会
再生不良性貧血における免疫抑制療法の効果予測法の確立	山崎 宏人	血液内科	1,400,000	補委 日本学術振興会
ミコフェノール酸を用いた難治性移植片対宿主病治療に関する多施設共同研究	高見 昭良	血液内科	1,000,000	補委 がん集学的治療研究財団
マイナー組織適合抗原高親和性T細胞レセプター遺伝子導入による特異的CTLの誘導	高見 昭良	血液内科	2,000,000	補委 日本学術振興会
TCRと抗原ペプチド/MHC分子の親和性を指標としたTAAの同定	近藤 恭夫	血液内科	1,300,000	補委 文部科学省
播種性血管内凝固症候群における新規線溶阻止因子TAFIの意義	御館 靖雄	血液内科	1,000,000	補委 文部科学省
再生不良性貧血における連鎖解析を用いた疾患感受性遺伝子の同定	杉盛 千春	血液内科	2,000,000	補委 文部科学省
腹部大動脈瘤モデルにおけるアネキシンIIの発現と瘤形成機序	林 朋恵	血液内科	2,900,000	補委 文部科学省
動脈硬化予防のための糖尿病・高脂血症の患者効用値を考慮した治療判断における研究	小泉 順二	総合診療内科	800,000	補委 日本学術振興会
わが国における医師のプロフェッショナリズム探索と推進・教育に関する事業研究	野村 英樹	総合診療内科	300,000	補委 日本学術振興会
「根拠に基づくガイドライン」の適切な作成・利用・普及に向けた基盤整備に関する研究:患者・医療消費者の参加推進に向けて	野村 英樹	総合診療内科	300,000	補委 厚生労働省
ヒト脳脊髄液によるアミロイドβ蛋白線維化抑制現象の解析と臨床応用	山田 正仁	神経内科	500,000	補委 文部科学省
アミロイドーシスの画期的診断・治療法に関する研究	山田 正仁	神経内科	1,200,000	補委 厚生労働省
アミロイドーシスに関する調査研究	山田 正仁	神経内科	5,000,000	補委 厚生労働省
アミロイドーシスの画期的診断・治療法に関する研究	山田 正仁	神経内科	1,200,000	補委 厚生労働省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
プリオン病及び遅発性ウイルス感染に関する調査研究	山田 正仁	神経内科	3,000,000	(補) 厚生労働省 委
石川ハイテク・センシング・クラスター構想: 早期地方診断支援技術の開発・予防型社会システムの構築をめざして	山田 正仁	神経内科	70,218,000	(補) 文部科学省 委
生体分子及び有機化合物の α -シヌクレイン凝集に及ぼす影響の解析	小野 賢二郎	神経内科	1,800,000	(補) 文部科学省 委
骨髄細胞のTREM2陽性マイクログリア細胞への分化誘導	高橋 和也	神経内科	2,500,000	(補) 文部科学省 委
パニック障害の治療法の最適化と治療ガイドラインの策定	長澤 達也	神経科精神科	900,000	(補) 厚生労働省 委
ヘムオキシゲナーゼ1欠損と全身性慢性炎症に対する防御機構の破綻	小泉 晶一	小児科	3,400,000	(補) 日本学術振興会 委
三次元モデルを用いた微少残存白血病細胞の動態解析に基づく再発予知的治療戦略の創成	犀川 太	小児科	1,000,000	(補) 日本学術振興会 委
自閉症に関連するX染色体上の刷り込み遺伝子の同定	新井田 要	小児科	1,400,000	(補) 文部科学省 委
原発性免疫不全症における原因遺伝子の復帰に関する研究	和田 泰三	小児科	2,000,000	(補) 日本学術振興会 委
造血細胞系統別のAML1/ETO陽性細胞の解析と白血病化に関わる二次的遺伝子異常の検索	前馬 秀昭	小児科	500,000	(補) 公益信託 日本白血病研究基金 委
血管新生阻害剤の肝癌多段階発癌への影響のインビボ解析: 画像診断と塞栓療法への応用	松井 修	放射線科	1,800,000	(補) 日本学術振興会 委
骨転移に対するラジオ波凝固療法についての研究	松井 修	放射線科	1,000,000	(補) 厚生労働省 委
血流動態に応じた難治がん治療法の開発に関する研究	松井 修	放射線科	1,000,000	(補) 厚生労働省 委
難治がんの総合的な対策に関する研究	松井 修	放射線科	1,000,000	(補) 国立がんセンター 委
がん治療におけるIVRの技術向上と標準化に関する研究	松井 修	放射線科	1,000,000	(補) 国立がんセンター 委
生体顕微鏡を用いたウサギ肝内微少血行動態観察に基づく肝動脈塞栓術の至適条件の検討	小林 聡	放射線科	1,100,000	(補) 日本学術振興会 委
細胞移植における細胞の経血管性導入に関する実験的研究: 樹状細胞の肝動注による検討	香田 渉	放射線科	2,500,000	(補) 文部科学省 委
DNA免疫法による抗CTGF抗体のサイトカイン誘導性皮膚線維化マウスモデルの抑制	竹原 和彦	皮膚科	2,200,000	(補) 日本学術振興会 委
強皮症における病因解明と根治的治療法の開発	竹原 和彦	皮膚科	6,000,000	(補) 厚生労働省 委
B細胞シグナル伝達を標的とした自己免疫疾患治療法の開発	藤本 学	皮膚科	1,800,000	(補) 日本学術振興会 委
B細胞のシグナル伝達調節による皮膚疾患・免疫疾患の制御	藤本 学	皮膚科	500,000	(補) (財)日本リディアオリ リー協会 委
B細胞除去療法による強皮症モデルマウスの治療	長谷川 稔	皮膚科	1,900,000	(補) 日本学術振興会 委
強皮症における病因解明と根治的治療法の開発	長谷川 稔	皮膚科	1,000,000	(補) 厚生労働省 委
全身強皮症における線維化関連遺伝子のDNAマイクロアレイを用いた検討	白崎 文朗	皮膚科	600,000	(補) 文部科学省 委

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
全身性強皮症の自己免疫におけるレプチンの役割について	西島 千博	皮膚科	700,000	補 委 文部科学省
悪性黒色腫におけるBRAF変異遺伝子の機能解析と臨床応用への検討	藤本 晃英	皮膚科	1,400,000	補 委 文部科学省
全身性強皮症のImatinibの抗線維化効果についての検討	石田 濟	皮膚科	2,300,000	補 委 文部科学省
マウスを用いた抗CD20抗体療法におけるFcレセプターの役割の解明	濱口 儒人	皮膚科	1,900,000	補 委 文部科学省
乳房外パジェット病の転移浸潤におけるTWISTの役割	石井 貴之	皮膚科	1,320,000	補 委 日本学術振興会
全身性強皮症皮膚線維化モデルを用いたMCP-1、フラクタルカインと受容体の役割	荒井 美奈子	皮膚科	1,320,000	補 委 日本学術振興会
BAPFアンタゴニストによる強皮症モデルマウスの治療	松下 貴史	皮膚科	2,900,000	補 委 文部科学省
Biodegradable DC patchの開発-開心術後afに対する除細動-	渡邊 剛	心臓血管外科	2,700,000	補 委 文部科学省
術後冠動脈造影に基づいたバイパスグラフトの選択と使用方法に関するガイドライン作成のための日米多施設共同研究	渡邊 剛	心臓血管外科	600,000	補 委 国立循環器病センター
ステントグラフト留置後の瘤径変化に影響を与えるリスクファクターの解明	大竹 裕志	心臓血管外科	1,000,000	補 委 日本学術振興会
手術支援ロボットを用いた大血管自動吻合システムの基礎的研究	木村 圭一	心臓血管外科	2,000,000	補 委 文部科学省
胃癌腹膜転移における診断法の開発とアンギオテンシン系を介した線維化機構とその制御	伏田 幸夫	胃腸外科	1,100,000	補 委 日本学術振興会
G蛋白質共役型受容体を介した膵癌細胞の増殖・浸潤促進、抗アポトーシス機構の解明	太田 哲生	肝胆膵・移植外科	700,000	補 委 日本学術振興会
外科手術用ロボット(da Vinci)を用いた新たな胃内手術方法の開発	平能 康充	内分泌・総合外科	1,900,000	補 委 文部科学省
脊髄損傷における脊髄横断モデルと脊髄圧挫モデルの病態比較	富田 勝郎	整形外科	1,500,000	補 委 日本学術振興会
高悪性度軟部腫瘍に対する標準的治療法の確立に関する研究	土屋 弘行	整形外科	900,000	補 委 厚生労働省
抗癌剤およびカフェイン封入リポソームを用いた骨肉腫の治療とテーラーメイド化学療法	土屋 弘行	整形外科	700,000	補 委 日本学術振興会
発光ダイオード光の生体活性効果の検討	池田 和夫	整形外科	2,500,000	補 委 日本学術振興会
関節リウマチの骨質形成に関する分子機構解明-滑膜細胞増殖と浸潤における転写因子PEA3の関与-	加畑 多文	整形外科	1,100,000	補 委 文部科学省
蛍光蛋白同時発現細胞を用いた生体内での経時的細胞動態解析	山本 憲男	整形外科	500,000	補 委 文部科学省
マウスを用いた癌血行性転移の、遺伝子発現及び抗癌剤作用のリアルタイム画像解析	山内 健輔	整形外科	1,340,000	補 委 日本学術振興会
骨粗鬆性脊椎骨折の力学解析-椎体骨折はどのようにして生じるのか-	村上 英樹	脊椎・脊髄外科	500,000	補 委 文部科学省
低侵襲型バイオ診断チップシステムの開発	並木 幹夫	泌尿器科	500,000	補 委 独立行政法人 科学技術振興機構
泌尿器悪性腫瘍に対するバイオ診断チップを用いたセルフスクリーニングシステム	並木 幹夫	泌尿器科	1,200,000	補 委 文部科学省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
精細管内微小環境モジュレーションによる抗癌化学療法後精子形成回復救済療法の確立	高 榮哲	泌尿器科	700,000	補委 日本学術振興会
ホルモン不応性前立腺癌におけるNFkB活性化の意義とその経路を標的とした治療戦略	小中 弘之	泌尿器科	2,000,000	補委 日本学術振興会
COX-2の前立腺癌における機能と治療戦略	藤田 博	泌尿器科	2,200,000	補委 文部科学省
V-src導入腎上皮細胞の肺転移モデルを利用した転移性腎癌に対する治療戦略	角野 佳史	泌尿器科	1,200,000	補委 文部科学省
脳老化に伴う過活動膀胱の機序の解明と予防・治療戦略の確立	四柳 智嗣	泌尿器科	1,100,000	補委 文部科学省
正常眼圧緑内障に対する早期発見のスクリーニングシステム構築と最適化された診療指針の確立に関する研究	杉山 和久	眼科	2,800,000	補委 厚生労働省
毛様体上皮細胞の浸透圧感受性Kチャンネルの同定とその房水産生調節機構の研究	高比良 雅之	眼科	700,000	補委 日本学術振興会
日本人に最適化した緑内障画像自動診断システムの確立	大久保 真司	眼科	3,200,000	補委 日本学術振興会
神経保護評価に向けた網膜神経節細胞の細胞体と軸索の生体内定量的観察法の確立	東出 朋巳	眼科	1,600,000	補委 日本学術振興会
走査型レーザー検眼鏡によるラット網膜神経節細胞の生体内定量的評価法の確立	東出 朋巳	眼科	1,000,000	補委 公益信託 須田記念緑内障治療研究奨励基金
ラタノプロストの眼圧下降作用を規定する遺伝子多型の解析ー緑内障治療薬のテーラーメイド医療を目指してー	桜井 真由美	眼科	1,100,000	補委 日本学術振興会
上咽頭がんにおけるマトリックスメタロプロテアーゼ1プロモーター遺伝子型と転移能	古川 仞	耳鼻咽喉科	1,400,000	補委 日本学術振興会
光トポグラフィーによる嗅覚中枢の同定と嗅覚検査への応用	三輪 高喜	耳鼻咽喉科	2,100,000	補委 日本学術振興会
EBウイルス活性化による遺伝子発現変化と上咽頭組織がん化に関する研究	吉崎 智一	耳鼻咽喉科	2,000,000	補委 日本学術振興会
核酸アナログ系抗ウイルス剤によるウイルス関連腫瘍治療に関する基礎研究	吉崎 智一	耳鼻咽喉科	1,400,000	補委 文部科学省
頭頸部がんに対する化学放射線療法が創傷治癒に与える影響の研究	達富 真司	耳鼻咽喉科	700,000	補委 日本学術振興会
EBウイルス潜在膜蛋白-1による線維芽細胞増殖因子-2分泌促進機構に関する研究	脇坂 尚宏	耳鼻咽喉科	1,200,000	補委 日本学術振興会
子宮内膜癌の診断治療に有効な分子標的の探索	井上 正樹	産科婦人科	4,500,000	補委 日本学術振興会
WT1癌抗原ペプチドを用いた癌の免疫療法の開発	井上 正樹	産科婦人科	800,000	補委 厚生労働省
テロメース特異的癌融解ウイルスによる婦人科腫瘍の遺伝子治療の開発	京 哲	産科婦人科	5,000,000	補委 日本学術振興会
RNAi技術を駆使したテロメース制御と婦人科癌の遺伝子治療への応用	京 哲	産科婦人科	1,000,000	補委 文部科学省
増殖型癌融解ウイルスの卵巣癌治療への応用	高倉 正博	産科婦人科	1,800,000	補委 文部科学省
テロメースプロモーターを用いた腫瘍特異的増殖ウイルスによる癌治療の確立	高倉 正博	産科婦人科	500,000	補委 特定非営利活動法人 日本婦人科腫瘍学会
Tissue-FISHによる新しいテロメア長測定法の開発と婦人癌早期診断への応用	毎田 佳子	産科婦人科	1,000,000	補委 文部科学省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
がんの代替療法の科学的検証と臨床応用に関する研究	大野 智	産科婦人科	1,000,000	(補) 国立がんセンター 委
生体内分解性薬剤徐放ゲルによる子宮内膜症治療DDSの臨床応用	野村 一人	産科婦人科	1,000,000	(補) 財団法人 三谷研究開 委 発支援財団
運動誘発電位に含まれる高周波振動の脊髄虚血モニタリングへの応用に関する研究	山本 健	麻酔科蘇生科	1,000,000	(補) 日本学術振興会 委
脊髄の虚血再灌流障害に対するポストコンディショニングの効果	坪川 恒久	麻酔科蘇生科	2,100,000	(補) 日本学術振興会 委
膜蛋白のプロテオーム解析による神経膠腫浸潤関連分子の同定と機能解析	濱田潤一郎	脳神経外科	900,000	(補) 文部科学省 委
顔面神経細胞の逆行性変性に関する研究	東 良	脳神経外科	1,700,000	(補) 文部科学省 委
虚血後心筋リモデリングにおけるプログラム細胞死、アポトーシスの関与とその画像化	瀧 淳一	核医学診療科	1,000,000	(補) 日本学術振興会 委
高齢者における心機能の特殊性解析と機能的標準化	中嶋 憲一	核医学診療科	500,000	(補) 日本学術振興会 委
癌細胞膜アビジン発現とスカベンジャー受容体内在化による特異的普遍的内照射法の開発	絹谷 清剛	核医学診療科	1,100,000	(補) 日本学術振興会 委
口腔扁平上皮癌の浸潤増殖動態に関する実験的研究-特に浸潤様式からみた浸潤機序の解析を中心に-	山本 悦秀	歯科口腔外科	5,100,000	(補) 日本学術振興会 委
顎関節症進行のメカニズムに関する研究	高塚 茂行	歯科口腔外科	1,500,000	(補) 日本学術振興会 委
口腔扁平上皮癌における悪性化の分子機構-siRNAによる機能解析と治療法の開発-	能崎 晋一	歯科口腔外科	2,600,000	(補) 日本学術振興会 委
抗癌剤および血管新生阻害剤による口腔扁平上皮癌の浸潤・転移抑制効果	川尻 秀一	歯科口腔外科	2,000,000	(補) 日本学術振興会 委
口腔化膿性感染症原因菌のβ-ラクタマーゼ産生遺伝子の検出	栗山 智有	歯科口腔外科	1,200,000	(補) 文部科学省 委
顎関節症力解析を用いた手術シミュレーションの臨床応用	上木 耕一郎	歯科口腔外科	1,300,000	(補) 文部科学省 委
薬物誘発性QT延長症候群の発症を調節するKCR1の役割	林 研至	検査部	5,000,000	(補) 日本心臓財団 委
線維芽細胞増殖因子溶出型ハイドロゲル化ステントグラフト開発に関する実験的研究	眞田 順一郎	放射線部	2,700,000	(補) 日本学術振興会 委
デコンディション症例における体力・体組成・栄養状態の変化と運動療法の意義	八幡 徹太郎	リハビリテーション部	400,000	(補) 日本学術振興会 委
全身性強皮症患者的表情筋を鍛え生活を豊にする研究	麦井 直樹	リハビリテーション部	550,000	(補) 日本学術振興会 委
難治性骨折の骨癒合促進に関する研究	出口 清喜	リハビリテーション部	710,000	(補) 日本学術振興会 委
輸血用血液および細胞療法の安全性に関する研究	塩原 信太郎	輸血部	2,000,000	(補) 厚生労働省 委
子宮内膜癌におけるエストロゲン合成酵素の発現・制御の解析	可西 直之	周産母子センター	1,300,000	(補) 文部科学省 委
PEEPの短時間負荷により誘導される熱ショック蛋白を利用した敗血症の制御	稲葉 英夫	救急部	1,400,000	(補) 日本学術振興会 委
血液凝固因子製剤の文献的考察等に関する研究	朝倉 英策	高密度無菌治療部	500,000	(補) 血液製剤調査機構 委

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
開発したサイトカイン吸着カラムを利用した敗血症性ショックの制御	谷口 巧	集中治療部	1,700,000	補 委 日本学術振興会
自己免疫性膵炎およびIgG4関連硬化性胆管炎の病因・病態に関する研究	全 陽	病理部	1,300,000	補 委 文部科学省
骨髄由来細胞を介した新規の腎線維化機序の解析	和田 隆志	血液浄化療法部	1,800,000	補 委 日本学術振興会
糖尿病性臓器合併症の進展にはたす骨髄由来間葉系細胞の意義	和田 隆志	血液浄化療法部	2,000,000	補 委 武田科学振興財団
ケモカインMCP-1が誘導する肝癌自殺遺伝子治療の再発予防効果の検討	土山 智也	がん高度先進治療センター	1,000,000	補 委 文部科学省
シスプラチンによる腎機能障害に対する腎保護作用に関する研究	西上 潤	薬剤部	680,000	補 委 日本学術振興会

計 148

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Biochem Biophys Res Commun (2006.7)	Negative regulation of endothelial morphogenesis and angiogenesis by S1P(2) receptor	Inoki I	消化器内科
Blood (2006.6)	Foxp3+CD4+CD25+ T cells control virus-specific memory T cells in chimpanzees that recovered from	Manigold T	消化器内科
Cancer Gene Ther (2006.4)	Monocyte chemoattractant protein-1 gene delivery enhances antitumor effects of herpes simplex virus thymidine kinase/ganciclovir system in a model of colon cancer	Kagaya T	消化器内科
Cancer Science (2006.10)	Molecular functions and biological roles of hepatitis B virus x protein	Tang H	消化器内科
Clin Exp Immunol (2006.7)	Transgenic mice aberrantly expressing pyruvate dehydrogenase complex E2 component on biliary epithelial cells do not show primary biliary cirrhosis	Inamura K	消化器内科
Clin Exp Immunol (2007.2)	Combined therapy of transcatheter hepatic arterial embolization with intratumoral dendritic cell infusion for hepatocellular carcinoma: clinical safety	Nakamoto Y	消化器内科
Hepatology Res (2006.11)	Virological effects and safety of combined double-filtration plasmapheresis (DFPP) and interferon therapy in patients with chronic hepatitis C: A preliminary study	Yamashita T	消化器内科
Hepatology (2006.6)	Cytotoxic T cell responses to human telomerase reverse transcriptase in patients with hepatocellular carcinoma	Mizukoshi E	消化器内科
Hepatology (2006.11)	Different signaling pathways in the livers of patients with chronic hepatitis B or chronic hepatitis C	Honda M	消化器内科
Int J Cancer (2006.4)	Essential contribution of a chemokine, CCL3, and its receptor, CCRL1, to hepatocellular carcinoma	Yang X	消化器内科
J Infect Dis (2007.1)	Expression profiling of peripheral-blood mononuclear cells from patients with chronic hepatitis C undergoing interferon therapy	Tateno M	消化器内科
J Virol (2006.4)	Effect of hepatitis C virus (HCV) NS5B-nucleolin interaction on HCV replication with HCV subgenomic replicon	Shimakami T	消化器内科
Biochem Biophys Res Commun (2006.8)	Profile of rhythmic gene expression in the livers of obese diabetic KK-A(y) mice	Ando H	内分泌・代謝内科
Chronobiol Int (2006.6)	High-fat feeding exerts minimal effects on rhythmic mRNA expression of clock genes in mouse peripheral	Yanagihara H	内分泌・代謝内科
Diabetes Res Clin Pract (2007.3)	Factors associated with improvement of fasting plasma glucose level by mealtime dosing of a rapid-acting insulin analog in type 2 diabetes	Takamura T	内分泌・代謝内科
Diabetologia (2007.1)	Comment on: Nathan DM, Buse JB, Davidson MB et al. (2006) Management of hyperglycaemia in type 2 diabetes: a consensus algorithm for the initiation and adjustment of therapy. A consensus statement from the American Diabetes Association and the European Association for the Study of Diabetes. Diabetologia 49:	Takamura T	内分泌・代謝内科
Diabetologia (2007.2)	Genes involved in oxidative phosphorylation are coordinately upregulated with fasting hyperglycaemia in livers of patients with type 2 diabetes	Misu H	内分泌・代謝内科
DITN (2006.7)	チーム医療 —患者さんのために、そしてスタッフ自身のために—	篁 俊成	内分泌・代謝内科
Endocrine J. 54:95-101, (2007)	Medical Treatment of Benign Insulinoma Using Octreotide LAR: Case Report	M. Usukura	内分泌・代謝内科
Gastroenterology (2007.1)	Insulin resistance accelerates a dietary rat model of nonalcoholic steatohepatitis	Ota T	内分泌・代謝内科
Horm Metab Res 38: 130-3, (2006)	Effects of raloxifene on adipocytokines in Japanese osteoporotic postmenopausal women with and without type 2 diabetes.	Y. Murase	内分泌・代謝内科
Hypertens Res.29: 9-14, (2006)	Pathophysiological roles of adrenal renin-angiotensin system in patients with primary aldosteronism	N. Oda	内分泌・代謝内科
J Diabetes Complications (2006.11)	Erythrocyte sorbitol level as a predictor of the efficacy of epalrestat treatment for diabetic peripheral polyneuropathy	Ando H	内分泌・代謝内科
J Lipid Res (2007.3)	Effects of lipoprotein lipase and statins on cholesterol uptake into heart and skeletal muscle	Yokoyama M	内分泌・代謝内科
Kidney Int (2006.5)	Indoxyl sulfate stimulates proliferation of rat vascular smooth muscle cells	Yamamoto H	内分泌・代謝内科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Metabolism (2006.11)	Tumor necrosis factor- α -induced production of plasminogen activator inhibitor 1 and its regulation by pioglitazone and cerivastatin in a nonmalignant human hepatocyte cell line	Takeshita Y	内分泌・代謝内科
Metabolism (2007.1)	Association of the C825T polymorphism of the G-protein beta3 subunit gene with hypertension, obesity, hyperlipidemia, insulin resistance, diabetes, diabetic complications, and diabetic therapies among Japanese	Hayakawa T	内分泌・代謝内科
N Engl J Med (2007.3)	Pioglitazone in nonalcoholic steatohepatitis	Ota T	内分泌・代謝内科
Nephrol Dial Transplant (2007.3)	Defect in parathyroid-hormone-induced luminal calcium absorption in connecting tubules of Klotho mice メタボリックシンドロームと糖尿病	Tsuruoka S 櫻井 勝	内分泌・代謝内科
Atherosclerosis (2007.3)	Decreased post-prandial triglyceride response and diminished remnant lipoprotein formation in cholesteryl ester transfer protein (CETP) deficiency.	稲津明広	循環器内科
Circulation (2006.8)	Angiotensin II induces premature senescence of vascular smooth muscle cells and accelerates the development of atherosclerosis via a p21-dependent pathway	Kunieda T	循環器内科
Clin Sci (Lond) (2006.11)	Cholesteryl ester transfer protein (CETP) promoter -1337 C>T polymorphism protects against coronary atherosclerosis in Japanese patients with heterozygous familial hypercholesterolemia.	高田睦子	循環器内科
J arrhythmia (2006.4)	The Rho/Rho-kinase Systems are Involved in Rapid Pacing-induced Changes of Atrial Refractory Period in a Canine Model	Furusho H	循環器内科
J Cardiovasc Electrophysiol (2006.8)	What are arrhythmogenic substrates in diabetic rat atria?	Kato T	循環器内科
Progress in Medicine (2006.9)	心室性不整脈に対するamiodaroneとICD併用の現状	古荘浩司	循環器内科
Am J Nephrol (2006.9)	Reduction in Chronic Allograft Nephropathy by Inhibition of p38 Mitogen-Activated Protein Kinase	Wada T	腎臓内科
Am J Pathol (2006.7)	Role for macrophage metalloelastase in glomerular basement membrane damage associated with alport syndrome	Rao VH	腎臓内科
Am J Pathol (2006.10)	Interferon- γ Plays Protective Roles in Sodium Arsenite-Induced Renal Injury by Up-Regulating Intrarenal Multidrug Resistance-Associated Protein 1	Kimura A	腎臓内科
Am J Pathol (2007.2)	Development of immunoglobulin A nephropathy-like disease in beta-1,4-galactosyltransferase-I-deficient	Nishie T	腎臓内科
Arthritis Rheum (2007.2)	Increased expression of TRAIL receptor 3 on eosinophils in Churg-Strauss syndrome	Mitsuyama H	腎臓内科
Kidney Int (2006.6)	Blockade of VEGF accelerates proteinuria, via decrease in nephrin expression in rat crescentic	Hara A	腎臓内科
Nephrol Dial Transplant (2006.10)	TAK-603, an anti-inflammatory compound, reduces crescentic glomerulonephritis and preserves renal function in WKY rats	Yamahana J	腎臓内科
Proc Natl Acad Sci U S A (2006.9)	Secondary lymphoid tissue chemokine (SLC/CCL21)/CCR7 signaling regulates fibrocytes in renal fibrosis	Sakai N	腎臓内科
腎と骨代謝 (2006.4)	塩酸セベラマーによる低PTHと骨形成マーカー改善効果 - 当院維持透析患者における検討 -	中屋来哉	腎臓内科
Blood 109(6):2514-2520 (2007.3)	Specific antibodies to moesin, a membrane-cytoskeleton linker protein, are frequently detected in patients with acquired aplastic anemia.	高松博幸	血液内科
Bone Marrow Transplant. 38(11):729-732. (2006.10)	Reduced-intensity unrelated cord blood transplantation for treatment of metastatic renal cell carcinoma: first evidence of cord-blood-versus-solid-tumor effect.	高見昭良	血液内科
Crit Care Med 34:2646-2650 (2006.10)	No interplay between the pathways mediating coagulation and inflammation in tissue factor-induced DIC in rats.	御館靖雄	血液内科
Eur M Haematol. 78(2):157-160 (2007.2)	Graft rejection and hyperacute Graft-versus-host disease in stem cell transplantation from non-inherited maternal-antigen-complementary HLA-mismatched siblings.	奥村廣和	血液内科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Exp Hemato 135:13-20 (2006.9)	Roles of DRB1 *1501 and DRB1*1502 in the pathogenesis of aplastic anemia.	杉盛千春	血液内科
Int J Hematol. 84(2):170-173 (2006.8)	Successful treatment of minimal residual disease-positive Philadelphia chromosome-positive acute lymphoblastic leukemia with imatinib followed by reduced-intensity unrelated cord blood transplantation after allogeneic peripheral blood stem cell transplant	高見昭良	血液内科
Int J Hematol. 84:118-122 (2006.8)	Clinical significance of a small population of paroxysmal nocturnal hemoglobinuria-type cells in the management of bone marrow failure.	中尾眞二	血液内科
Transplantation Proceedings. 39:237-239	Safety and Efficacy of Foscarnet for Preemptive Therapy Against Cytomegalovirus Reactivation After Unrelated Cord Blood Transplantation.	高見昭良	血液内科
Allergy & Asthma Proceedings (2006)	Longitudinal changes of pulmonary function and bronchial responsiveness in cough variant asthma treated with bronchodilators alone.	野畑浩一	呼吸器内科
Anticancer Res. 26(5B): 3723-8, (2006)	A phase II study of combination chemotherapy with docetaxel and carboplatin for patients with advanced or metastatic non-small cell lung cancer.	笠原寿郎	呼吸器内科
Anticancer Res. 26(2B):1495-1499 (2006.4)	Randomized phase II trial of OK-432 in patients with malignant pleural effusion due to non-small cell lung cancer.	笠原寿郎	呼吸器内科
British Journal of Cancer 95:1390-1395 (2006.10)	EGFR mutation status in tumour-derived DNA from pleural effusion fluid is a practical basis for predicting the response to gefitinib.	木村英晴	呼吸器内科
Cancer Science 97(7):642-648 (2006.7)	High sensitivity detection of epidermal growth factor receptor mutations in the pleural effusion of non-small cell lung cancer patients.	木村英晴	呼吸器内科
Clin Cancer Res. 12(13):3915-3921 (2006.7)	Detection of Epidermal Growth Factor Receptor Mutations in Serum as a Predictor of the Response to Gefitinib in Patients with Non-Small-Cell Lung Cancer.	木村英晴	呼吸器内科
Clin Exp Allergy 36 (10):1294-1302 (2006.10)	Role of intercellular adhesion molecule-1 in a murine model of toluene diisocyanate-induced asthma.	古荘志保	呼吸器内科
Clinical and Experimental Medicine 6(2):79-83 (2006.6)	Ambroxol for the prevention of acute upper respiratory disease: a long-term single centre trial.	野畑浩一	呼吸器内科
Cough 3(2):1-7 (2007.1)	Prostaglandin 12 enhances cough reflex sensitivity to capsaicin in the asthmatic airway.	石浦嘉久	呼吸器内科
Eur J Cancer. 42(18):3157-60 (2006.12)	Gastrointestinal metastases from primary lung cancer.	良元章浩	呼吸器内科
Intern Med 45(6):359-362 (2006.4)	Pulmonary sarcoidosis with usual interstitial pneumonia distributed predominantly in the lower lung fields.	野畑浩一	呼吸器内科
International Archives of Allergy and Immunology 140(4):327-333 (2006.6)	Eosinophilic inflammation and remodeling of lower airway, bronchial responsiveness and cough reflex sensitivity in non-asthmatic subjects with nasal allergy.	原 丈介	呼吸器内科
J Asthma 43(6):427-428 (2006.8)	Bronchial asthma showing reduction in FEV1 after inhalation of Qvar.	野畑浩一	呼吸器内科
Clin Exp Med 6(2):79-83 (2006.7)	Ambroxol for the prevention of acute upper respiratory disease.	野畑浩一	呼吸器内科
Pulmonary Pharmacology and Therapeutics (2006.5)	Selective inhibitors for phosphodiesterase 3 and 4 in antigen-induced increase of cough reflex sensitivity in guinea pigs.	藤村政樹	呼吸器内科
癌と化学療法 34(2):217-219 (2007.2)	四次治療としてのCisplatin+Gemcitabine 併用化学療法により初めて奏効を得た進行肺大細胞癌の一例	丹保裕一	呼吸器内科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本呼吸器学会雑誌 44(11):817-811 (2006.11)	気胸治療中に明らかとなった悪性胸膜中皮腫の一例	片山伸幸	呼吸器内科
日本呼吸器学会雑誌 44(4):301-304 (2006.4)	日本人の非喫煙女性における1秒量の経年変化 -縦断的研究-	西辻 雅	呼吸器内科
日本呼吸器学会雑誌 44(5):384-388 (2006.5)	日本人女性に発症した前縦隔原発絨毛癌の1例	戸来依子	呼吸器内科
日本呼吸器学会誌 45(3):277-281 (2007.3)	健診の胸部CTにて発見された、早期の特発性肺胞蛋白 症の1例	高戸葉月	呼吸器内科
肺癌 46(2):117-125 (2006.4)	骨格筋転移を来した肺癌3症例の臨床的検討	新屋智之	呼吸器内科
肺癌 46(2):145-150 (2006.4)	病理学的に偽中脾腫性発育を示した肺腺癌の1剖検例	丹保裕一	呼吸器内科
Brain (2006.9)	Neuronal atrophy and synaptic alteration in a model mouse of dentatorubral-pallidoluysian atrophy.	坂井健二	神経内科
Exp Neurol (2006.11)	Blood-borne factors inhibit Alzheimer's b-amyloid fibril formation in vitro.	小野賢二郎	神経内科
Exp Neurol (2007.2)	Cerebrospinal fluid of Alzheimer's disease and dementia with Lewy bodies patients enhances a-synuclein fibril formation in vitro.	小野賢二郎	神経内科
J Neurosci Methods (2006.5)	Inhibition by human sera of botulinum neurotoxin-A binding to synaptosomes. A new assay for blocking and non-blocking antibodies.	丸田高広	神経内科
Neurology (2006.6)	Value of Iodine-123 MIBG radioactivity in the differential diagnosis of DLB from AD.	吉田光宏	神経内科
American Journal of Kidney Diseases (2006)	Rituximab therapy for Epstein-Barr virus-related chronic hepatitis following living donor kidney transplantation	太田和秀	小児科
Biochemical and Biophysical Research Communications (2007)	Corticosteroid enhances heme oxygenase-1 production by circulating monocytes by upregulating hemoglobin scavenger receptor and amplifying the receptor- mediated uptake of hemoglobin/haptoglobin complex.	山崎治幸	小児科
Blood (2007)	Somatic revertant mosaicism in a patient with leukocyte adhesion deficiency type 1.	刀祢裕美	小児科
Clinical and Experimental Immunology (2007)	Clonotypic analysis of T cell reconstitution after haematopoietic stem cell transplantation (HSCT) in patients with severe combined immunodeficiency	岡本浩之	小児科
European Journal of Haematology (2007)	Immunophenotypic analysis of Epstein-Barr virus (EBV)-infected CD8+ T cells in a patient with EBV- associated hemophagocytic lymphohistiocytosis	和田泰三	小児科
European Journal of Haematology (2007)	Monoblastic sarcoma of the kidneys in an infant leukaemia	伊川泰広	小児科
International Journal of Hematology (2007)	Reactive peripheral blood plasmacytosis in a patient with acute hepatitis	和田泰三	小児科
Journal of Clinical Oncology (2007)	Pancreatic and renal involvement in pediatric acute lymphoblastic leukemia/lymphoma	伊川泰広	小児科
Journal of Clinical Oncology (2006)	Hemophagocytic alveolar rhabdomyosarcoma.	犀川 太	小児科
Journal of Paediatrics and Child Health (2006)	Cytomegalovirus-associated protracted diarrhoea in an immunocompetent boy	清水正樹	小児科
小児科臨床 (2006)	抗好中球抗体の検出により早期診断が可能であった乳 児自己免疫性好中球減少症の1例.	柴田文恵	小児科
小児科臨床 (2006)	マイコプラズマ抗体価が高値であった急性髄膜脳炎の1 例.	横山忠史	小児科
日本小児腎不全学会 雑誌 (2006)	生体腎移植後のEBV慢性持続感染による慢性肝炎に rituximabが著効した1例.	太田和秀	小児科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Cardiovasc Intervent Radiol 29 (4):646-649, (2006)	Usefulness of grasping a guiding catheter With a loop-snare wire stent placement Into the vertebrobasilar artery.	Yoneda K	放射線科
Hepato Res.	Focal hepatic mimicking cavernous hemangioma supplied by the portal vein.	Matsui O	放射線科
消化器外科 29 (8): 1139-1147, (2006)	転移性肝癌の病理所見からみた類型化と治療方針・予後	中村功一	放射線科
臨床放射線 51 (6): 737-742, (2006)	頭頸部動脈狭窄に対するステント留置術の検討	草薙実穂	放射線科
Am J Pathol (2006.9)	B-lymphocyte depletion reduced skin fibrosis and autoimmunity in the tight-skin mouse model for systemic sclerosis	Hasegawa M	皮膚科
Arch Dermatol Res (2006.6)	Both Th1 and Th2 chemokine are elevated in sera of patients with autoimmune blistering disease	Echigo T	皮膚科
Dermatology (2006.6)	A clue for telangiectasis in systemic sclerosis: elevated serum soluble endoglin levels in patients with the limited cutaneous form of the disease.	Fujimoto M	皮膚科
J Invest Dermatol (2006.8)	Intracellular TGF-beta receptor blockade abrogates Smad-dependent fibroblast activation in vitro and in vivo	Ishida W	皮膚科
J Leukocyte Biol (2006.4)	L-selectin and intercellular adhesion molecule-1 regulate the development of concanavalin A-induced liver injury	Kawasuji A	皮膚科
Angiology Frontier (2006.9)	Hybridステントグラフト留置術後の抗血小板療法	大竹裕志	心臓血管外科
Ann Thorac Surg (2006)	Successful Coronary Revascularization Using the PAS-Port System in a Patient With Takayasu's Arteritis and Behcet's Disease	Kenji Iino	心臓血管外科
Cardiovascular Med- Surg (2006.5)	ステントグラフト内挿術	大竹裕志	心臓血管外科
CIRCULATION (2006)	未来型CABG	渡邊 剛	心臓血管外科
Innovations (2006.Spring)	Clinical Application of an Original Flexible MK Stent-Graft For Nonruptured Thoracic Aortic Aneurysms: Early Experience	Hiroshi Ohtake	心臓血管外科
Interactive Cardiovascular and Thoracic Surgery (2006-2007)	Lidocaine-magnesium blood cardioplegia was equivalent to potassium blood cardioplegia in left ventricular function of canine heart	Shohjiro Yamaguchi	心臓血管外科
脈管学 (2007.3)	完全内視鏡下心拍動下冠動脈バイパス術	富田重之	心臓血管外科
Oncology Reports 15;1469-1475, (2006.6)	Duodenal juice stimulates oesophageal stem cells to induce barrett's oesophagus and oesophageal adenocarcinoma in rats	Miyashita T	胃腸外科
化学療法の領域 23(1):125-132, (2007.1)	術後感染症に対するメシル酸パズフロキサシン (PZFX) の臨床的検討	藤村 隆	胃腸外科
外科治療 95(2): 186-193, (2006.8)	幽門側胃切除後・空腸パウチ間置再建法 (JPI)	木南伸一	胃腸外科
消化器科 43(4):372-377, (2006.10)	GERD患者における十二指腸・胃・食道逆流の検討	佐々木省三	胃腸外科
日本内視鏡外科学会雑誌 11(2): 155-161, (2006.4)	胸腔鏡下食道癌根治術導入期における指導効果の検討	二宮 致	胃腸外科
医学と薬学 56(5):670-674, (2006.11)	胆道癌	中川原寿俊	肝胆膵・移植外科
外科 68(10):1173-1178, (2006.10)	乳頭部癌に対する膵頭十二指腸切除と至適リンパ節郭清範囲	萱原正都	肝胆膵・移植外科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
外科治療 96(2):201-205, (2007.2)	膵頭部癌の標準術式としてのno-touch isolation techniqueを用いた膵頭切除術	北川裕久	肝胆膵・移植外科
手術 60(11)741-1745, (2006.10)	尾側膵切除に伴う膵断端処理の工夫-膵断端非閉鎖法(open法)について-	北川裕久	肝胆膵・移植外科
消化器画像 8(4):465-468, (2006.7)	膵癌長期生存例の臨床と画像 -金沢大学	萱原正都	肝胆膵・移植外科
消化器画像 8(5):605-610, (2006.9)	主膵管に尾側膵管拡張を伴った狭窄を認めたためIPMNと鑑別困難であった膵頭部漿液性嚢胞腺腫の1切除例	古河浩之	肝胆膵・移植外科
日本消化器外科学会 雑誌 39(12):827-833 (2006.12)	画像・肉眼所見で充実性を呈した膵体部漿液性嚢胞腺腫の1切除例	竹下雅樹	肝胆膵・移植外科
日本胆膵生理機能研 究会・胆膵の理機能 22(1):47-51, (2006.6)	高齢者膵全摘後の栄養管理に在宅中心静脈栄養法(HPN)によるグルカゴン持続投与が有効であった1例	北川裕久	肝胆膵・移植外科
World Journal of Surgery (2006)	The tissue oxygen saturation during colorectal surgery measured by near-infrared spectroscopy - a pilot study to predict predict anastomotic complications	Yasumitsu Hirano	内分泌・総合外科
Breast Cancer. (2007;14(1):1-8.)	Role of breast surgeons in evolution of the surgical management of breast cancer.	Masakuni Noguchi	乳腺科
Anticancer Res 26:447-454, (2006)	Biological reconstruction after excision of juxta-articular osteosarcoma around the knee: a new classification system	土屋弘行	整形外科
J Ortho Sci 11:3-12, (2006)	Total En Bloc Spondylectomy for Spinal Tumors - Improvement of the technique and its associated basic background	富田勝郎	整形外科
中部整災誌 49:707-708, (2006)	ACL再建後のスポーツ復帰-Howellの方法を用いての早期競技復帰の試み-	北岡克彦	整形外科
Spine 31:E117-E122, (2006)	Complete segmental resection of the spine including the spinal cord for telangiectatic osteosarcoma	村上英樹	脊椎・脊髄外科
臨床整形外科 41:383-388, (2006)	胸椎後縦靭帯骨化症に対する後弯軽減(dekyphosis)を加えた脊髄全周除圧術	川原範夫	脊椎・脊髄外科
International Journal of Urology (2006.5)	Bisphosphonate induces apoptosis and inhibits pro-osteoclastic gene expression in prostate cancer cells.	Hideki Asahi	泌尿器科
International journal of urology (2007.3)	Establishment and characterization of androgen-independent human prostate cancer cell lines, LN-REC4 and LNCaP-SF; from LNCaP.	Yoichi Iwasa	泌尿器科
Investigative Ophthalmology and Visual Science 47(9):4050-4052, (2006.9)	Circadian intraocular pressure phythm is generated by clock genes	Kazuhisa Sugiyama	眼科
Investigative Ophthalmology and Visual Science 47(7):2943-2950 (2006.7)	In vivo imaging and counting of rat retinal ganglion cells using a scanning laser ophthalmoscope	Tomomi Higashide	眼科
Japanese Journal of Ophthalmology 51(2):149-151, (2007.3)	Primary conjunctival follicular lymphoma Treated with the Anti-CD20 antibody Rituximab and low-dose involved-field radiotherapy	Masayuki Takahira	眼科
Ophthalmology 114(1):69-75, (2007.1)	In vivo laser confocal microscopy findings for Bowman's layaer dystrophies (Thiel- Behnke and Reis-Bucklers corneal dystrophies)	Akira Kobayashi	眼科
Cancer Science	Activation of ERK1/2 occurs independently of KRAS or BRAF status in endometrial cancer and is associated with favorable prognosis.	Mizumoto Y	産科婦人科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Eur.J.Gynecol. Oncol.	Analysis of outcome of stage I-III endometrial cancer treated with systematic operation omitting paraaortic lymphadenectomy.	Kyo S	産科婦人科
Fertility and Sterility 85, Suppl 1: 1157-1167, (2006)	Local application of danazol-loaded hyaluronic acid hydrogel to endometriosis in a rat model	Kazuhito Nomura	産科婦人科
Hormone Frontier in Gynecology	子宮内膜癌化モデル	京 哲	産科婦人科
Human Pathology 37: 431-438, 2	High Twist expression is involved in infiltrative endometrial cancer and affects patient survival.	Kyo S	産科婦人科
Int J Gynecol Cancer 16, 1007-1013, (2006)	The evaluation of human papillomavirus DNA testing in primary screening for cervical lesions in a large population.	Inoue M	産科婦人科
J.Pathol. 210-214-223, (2006)	Distinct telomere length regulation in uterine cervical and endometrial premalignant lesions; implication for the roles of telomeres in uterine carcinogenesis.	Maida Y	産科婦人科
Laboratory and Clinical Practice	子宮頸癌検診におけるHPV-DNA検査の意義	笹川寿之	産科婦人科
Reprod. Oncol. .	Establishment of long-term culture model to study endometrial biology and carcinogenesis.	Kyo S	産科婦人科
SERM	卵巣摘出によるストレス誘発性精神機能障害に対するエストロゲン及びフラキシフェンの影響	小池浩司	産科婦人科
医薬ジャーナル増刊号「新薬展望2006」	子宮悪性腫瘍治療薬	京 哲	産科婦人科
炎症と免疫	ヒトパピローマウイルス感染と局所免疫	笹川寿之	産科婦人科
更年期とヘルスケア	ホルモン補充療法の新たな展開:その考え方と実際	小池浩司	産科婦人科
産科と婦人科	卵巣癌薬物療法の新展開 テロメラーゼを標的とした卵巣癌分子標的治療	京 哲	産科婦人科
産婦人科治療	HPV感染と子宮頸がん	井上正樹	産科婦人科
日本産科婦人科学会 研修ノート2007	子宮体癌	井上正樹	産科婦人科
臨床婦人科産科	遺伝子と創薬 ― 卵巣癌分子標的治療薬の現況と未来	京 哲	産科婦人科
臨床婦人科産科	女性診療外来:子宮頸管炎	京 哲	産科婦人科
臨床婦人科産科	女性診療外来:膣、外陰炎	京 哲	産科婦人科
ペインクリニック	経皮的椎体形成術中の脊椎管内へのセメント漏出をCT透視により早期に発見できた1症例	山田圭輔	麻酔科蘇生科
脳神経外科 34(10), 983-999, (2006)	悪性脳腫瘍における血液腫瘍関門(総説)	林 康彦	脳神経外科
日本臨床 64(増刊:インターベンション時代の脳卒中(下)):401-404, (2006)	視床出血の画像診断よりみた重症度判定	毛利正直	脳神経外科
Cancer Res 66(17): 8492-8500, (2006)	Ephrin-B3 ligand promotes glioma invasion through activation of Rac1	中田光俊	脳神経外科
Circulation J (2006.11)	Myocardial damages in systemic sclerosis detected by gated myocardial perfusion SPECT and sympathetic imaging.	Kenichi Nakajima	核医学診療科
Eur J Nucl Med Mol Imaging (2007.1)	Normal limits of ejection fraction and volumes determined by gated SPECT in clinically normal patients without cardiac events: a study based on the J-ACCESS database.	Kenichi Nakajima	核医学診療科
Methods (2006.10)	A simple and rapid radiochemical choline acetyltransferase (ChAT) assay screening test	Kazuhiro Shiba	核医学診療科
J Nucl Med (2007.1)	Therapeutic effects for the palliation of metastatic bone pain of a rhenium-186 complex-conjugated bisphosphonate in an animal model	Kazuma Ogawa	核医学診療科
Nucl Med Biol (2006.11)	Radioiodinated VEGF to image tumor angiogenesis in a LS180 tumor xenograft model.	Mitsuyoshi Yoshimoto	核医学診療科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Nucl Med Commun (2007.2)	Intraperitoneal radioimmunotherapy to treat early phase of peritoneal dissemination of human colon cancer cells in a murine model	Seigo Kinuya	核医学診療科
World J Nucl Med (2006.7)	Eradication of colon cancer cells before tumour formation in the peritoneal cavity of mice treated with intraperitoneal Re-186 radioimmunotherapy	Seigo Kinuya	核医学診療科
Journal of Medical Microbiology (2006.5)	Evaluation of a newly developed down-flow immunoassay for detection of serum mannan antigens in patients with candidaemia	藤田 信一	検査部
リハ医学 (2006;43(12))	急性期リハビリテーションの立場から見た脳動脈瘤破裂によるくも膜下出血患者の短期ADL帰結の予測.	八幡徹太郎	リハビリテーション部
Bone Marrow Transplantation	Immature platelet fraction for prediction of platelet engraftment after allogeneic stem cell transplantation.	高見昭良	輸血部
Bone Marrow Transplantation	Mismatch of minor histocompatibility antigen contributes to a graft-versus-leukemia effect rather than to acute GVHD, resulting in long-term survival after HLA-identical stem cell transplantation in Japan.	塩原信太郎	輸血部
Crit Care Med 34:2421-2425 (2006.9)	Immunoglobulin preparations attenuate organ dysfunction and hemostatic abnormality by suppressing the production of cytokines in lipopolysaccharide-induced DIC in rats.	朝倉英策	高密度無菌治療部
Blood Purit (2006.9)	Effects of pot-Treatment with Direct Hemoperfusion Using a CTR Column on Mortality and Inflammatory Responses to Endotoxin-Induced Shock in Rat	Takumi Taniguchi	集中治療部
Intensive Care Med (2007.3)	Dose-Related effects of direct hemoperfusion using a cytokine adsorbent column for the treatment of experimental endotoxemia	Takumi Taniguchi	集中治療部
Hepatology (2006)	Biliary papillary tumors share pathological features with intraductal papillary mucinous neoplasm of the pancreas.	全 陽	病理部
Hum Pathol (2006)	Multicystic biliary hamartoma: a hitherto undescribed lesion.	全 陽	病理部
J Gastroenterol Hepatol (2007)	Pathological study of idiopathic portal hypertension with an emphasis on cause of death based on records of Annuals of Pathological Autopsy Cases in Japan.	澤田星子	病理部
Mod Pathol (2006)	Biliary cystic tumors with bile duct communication: a cystic variant of intraductal papillary neoplasm of the bile duct.	全 陽	病理部
Liver Int. ;26(3):291-7 (2006.4)	The development and clinical features of splenic aneurysm associated with liver cirrhosis	Sunagozaka H	光学医療診療部
Am J Pathol ;169:372-387. (2006)	Chemokine receptor cx3cr1 regulates renal interstitial fibrosis after ischemia-reperfusion injury.	古市賢吾 他	血液浄化療法部
Crit Care Med ;34:2447-2455. (2006.9)	Interleukin-1-dependent sequential chemokine expression and inflammatory cell infiltration in ischemia-reperfusion injury.	古市賢吾 他	血液浄化療法部
Kidney International	Fibrocytes: a new insight into kidney fibrosis	Wada T	血液浄化療法部
Cancer Science 97(11): 1267-1273 (2006.11)	Diagnostic utility of aberrant methylation of tissue factor pathway inhibitor 2 in pure pancreatic juice for pancreatic carcinoma.	渡邊弘之	がん高度先進治療センター
Pancreas 32(4):382-389 (2006)	Aberrant methylation of secreted apoptosis-related protein2 (SARP2) in pure pancreatic juice in the diagnosis of pancreatic neoplasms.	渡邊弘之	がん高度先進治療センター
J Gastroenterol 41:791-797 (2006)	Preproenkephalin hypermethylation in the pure pancreatic juice compared with p53 mutation in the diagnosis of pancreatic carcinoma.	大坪公士郎	がん高度先進治療センター

(様式第12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 富田 勝郎
管理担当者氏名	・消化器内科長 金子 周一 ・内分泌・代謝内科長 武田 仁勇
	・リウマチ・膠原病内科長 川野 充弘 ・呼吸器内科長 藤村 政樹
	・循環器内科長 山岸 正和 ・腎臓内科長 和田 隆志 ・血液内科長 中尾 眞二
	・総合診療内科長 小泉 順二 ・神経内科長 山田 正仁
	・神経科精神科長 三邊 義雄 ・小児科長 小泉 晶一
	・放射線科長 松井 修 ・放射線治療科長 高仲 強 ・皮膚科長 竹原 和彦
	・心臓血管外科長 渡邊 剛 ・呼吸器外科長 小田 誠 ・胃腸外科長 西村 元一
	・肝胆膵・移植外科長 太田 哲生 ・内分泌・総合外科長 大村 健二
	・乳腺科長 野口 昌邦 ・整形外科長 土屋 弘行
	・脊椎・脊髄外科長 川原 範夫 ・泌尿器科長 並木 幹夫
	・眼科長 杉山 和久 ・耳鼻咽喉科長 古川 亙 ・産科婦人科長 井上 正樹
	・麻酔科蘇生科長 山本 健 ・脳神経外科長 濱田 潤一郎
	・核医学診療科長 絹谷 清剛 ・歯科口腔外科長 山本 悦秀
	・薬剤部長 宮本 謙一
・総務課長 神村 茂 ・経営管理課長 池上 久晴 ・医事課長 西川 岩雄	

		保管場所	分類方法
診療に関する諸記録		医事課	診療録は、1患者1ファイル
各診療科日誌, 手術記録, 看護記録 検査所見記録, エックス線写真, 紹介状, 退院した患者に係る入院期間 中の診療経過の要約		各診療科 看護部	
処方せん		薬剤部	
病院の管 理及び運 営に関す る諸記録	従業者数を明らかにする 帳簿	総務課	/
	高度の医療の提供の実績	医事課	
	高度の医療技術の開発及 び評価の実績	医事課	
	高度の医療の研修の実績	総務課	
	閲覧実績	総務課	
	紹介患者に対する医療提 供の実績	医事課	
	入院患者, 外来患者及び調 剤の数を明らかにする帳 簿	医事課 薬剤部	

規則第9条の23及び第11条各号に掲げる体制確保の状況	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	総務課	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	総務課	
	医療に係る安全管理を行う部門の配置状況	医事課	発生順
	当該病院内に患者からの相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課	開催順
	医療に係る安全管理のための指針	総務課	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医事課	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医事課	開催順
	医療機関内の事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医事課	発生順

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	病院長 富田 勝郎
閲覧担当者氏名	総務課長 神村 茂
閲覧の求めに応じる場所	病院資料閲覧室

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0件
閲覧者別	医師	延	0件
	歯科医師	延	0件
	国	延	0件
	地方公共団体	延	0件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	61.3%	算定期間	平成18年4月1日～平成19年3月31日
算出根拠	A: 紹介患者の数	10,458人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	6,990人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	525人	
	D: 初診の患者の数	22,332人	

(注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて少数点以下第1位まで記入すること。

2 A、B、C、Dは、それぞれ延べ数を記入すること。

①専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 (1名)・無
②専任の院内感染対策を行う部門の配置状況	有 (1名)・無
③医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有・無
<p>・所属職員：専任（1名） 兼任（12名）</p> <p>・活動の主な内容：</p> <p>(1) 医療に係る安全管理対策及び医療事故防止対策の企画及び立案に関すること。</p> <p>(2) 医療事故防止マニュアルの作成等に関すること。</p> <p>(3) 安全管理のための教育及び研修の企画及び運営に関すること。</p> <p>(4) アクシデント及びインシデント報告の調査及び分析に関すること。</p> <p>(5) リスクマネジャーとの連絡調整に関すること。</p> <p>(6) 医療事故等に係る診療録及び看護記録等の記載状況の確認及び指導に関すること。</p> <p>(7) 患者及び家族等への説明等，医療事故発生時の対応状況の確認及び指導に関すること。</p> <p>(8) 医療事故等に係る原因究明の確認及び指導に関すること。</p> <p>(9) 金沢大学医療安全管理委員会で用いられる資料及び議事録の作成，保存その他当該委員会の事務に関すること。</p> <p>(10) その他医療に係る安全管理対策及び医療事故防止対策に関すること。</p> <p>※ 医療事故発生時の対応並びに医療訴訟及び診療情報提供に関する事項を除く。</p>	
④当該病院内に患者からの相談に適切に応じる体制の確保状況	有・無
⑤医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・指針の主な内容：</p> <p>(1) 病院における医療安全を確保するために，医療全体の質の向上を目指し，安全管理に関する体制を整備する。</p> <p>(2) 組織全体として，医療に係る安全管理及び医療事故防止に努める。</p> <p>(3) 安全管理のための教育及び研修等により，職員の安全管理に対する意識を高めるとともに，医療事故防止を図る。</p> <p>(4) 医療事故の未然防止及び医療の安全を確保するため「医療の質」の向上を目指す。</p> <p>(5) 医療事故等の発生時の対応については，常に誠実を基本とし，医療上の最善の処置を講ずることはもとより，患者及び家族等に対して事実の速やかな説明等，医療の透明性を確保した対応をするとともに，個人情報保護と倫理性の確保に十分努めるものとする。</p> <p>(6) 開かれた医療を推進していくためには情報の提供は重要であり，「金沢大学医学部附属病院の医療に係る安全管理のための指針」については，その趣旨と内容を公開し閲覧に供するものである。</p> <p>(7) 医療の安全管理の推進のため，医療への信頼を高め，患者の視点に立った医療を目指す。</p>	

⑥医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年12回
<p>・活動の主な内容</p> <p>(1) 医療に係る安全管理対策に関すること。</p> <p>(2) 医療事故防止対策に関すること。</p> <p>(3) 安全管理のための教育及び研修に関すること。</p> <p>(4) 発生した医療事故の原因の分析及び改善策等に関すること。</p> <p>(5) その他医療に係る安全管理及び医療事故防止に関すること。</p> <p>※ 院内感染対策委員会が所掌する事項を除く。</p>	
⑦医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年6回
<p>・研修の主な内容</p> <p>(1) セミナー『MRIの安全管理について』 5月29日 講師：宮地利明（大学院医学系研究科保健学専攻准教授） ※記録したDVDの上映会を3月20日に実施</p> <p>(2) 体験セミナー『磁場を体験しよう～MRIの医療安全について～』 6月19日、23日、26日 講師：清水 満（放射線部副診療放射線技師長）</p> <p>(3) セミナー『医療用ポンプの正しい使い方～輸液ポンプ・シリンジポンプについて～』 9月19日 講師：要田宏樹（ME 機器管理センター臨床工学技士）</p> <p>(4) セミナー『深部静脈血栓症～病態・看護・予防に関するQ&A～』 10月18日 講師：木村圭一（心臓血管外科助教）</p> <p>(5) セミナー『チーム医療における業務分担とルール～外来化学療法室の取り組みから～』 1月26日 講師：西村元一（外来化学療法室・前室長）， 菅 幸生（同・担当薬剤師），清水典江（同・担当看護師）</p> <p>(6) 講演会『重大事態発生時の対応ポイント』 2月9日 講師：中島和江（大阪大学医学部附属病院 中央クオリティマネジメント部 副部長）</p>	
⑧医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・医療機関内における事故報告等の整備 (有)・無</p> <p>・その他の改善のための方策の主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○事故報告等の分析結果を現場へフィードバック ○医療従事者の医療事故防止に関する教育 ○事故防止のための基礎知識の提供 ○事故報告等から必要なマニュアルを作成 ○インシデントサマリーに再発防止策を提案 ○事故報告等を事故防止セミナーの事例として活用 ○リスクマネージャーと現場を相互チェック ○事故防止マニュアルの見直し ○新人研修内容の見直し ○指示受け等のルール作成 ○院外の事故情報の提供による注意喚起 	